

[外国語]

児童が主体的に学び、英語表現に自信を深めていくための指導の工夫 －帰納的な指導と効果的な言語活動を通して－

堀 正人*

1 主題設定の意図

現学習指導要領では、「学びに向かう力・人間性等」を高めていくための指導が、3つの柱のうちの一つとして求められている。「学びに向かう力・人間性等」の育成に関わって、吉田(2018)は、従来の「文法の練習をした後にコミュニケーション活動をする」という演繹的な指導ではなく、「コミュニケーション活動から始まり、それに必要な文法を学んでいく」という帰納的な指導を重視していくべきと述べている。コミュニケーション活動から学習を始めることで、児童が必要な文法に自ら気付いていく「学びに向かう力」を高める児童生徒中心の活動になるからである。児童が自ら学習内容を学び取るため、帰納的な指導によって児童が英語学習に対して、より自信を深めていくことが期待できる。

「知識・技能」を高める上でも、帰納的な指導が求められている。中井(2009)は、「これまでの日本の授業では、日本語での文法解説やドリル学習といったExplicit(明示的)でDeductive(演繹的)な指導が中心でした。ただし私たちが母語を学んだ過程は、たくさんのInputを浴びながら自らルールを発見していったImplicit(暗示的)でInductive(帰納的)な行為だったはず。これからの英語学習には、第一言語習得のときと同じように、実際に英語を聞き話す活動を通じたImplicitでInductiveな学習が、発音、語彙、文法という3つの基本の習得にも、聞き、話し、読み、書くという4技能の習得にも必要だと考えます。」と述べている。帰納的な指導を行う上で、教師が英語を積極的に使うことの必要性も読み取れる。

現学習指導要領は、コミュニケーション活動などの言語活動を通して、外国語の音声や表現に慣れ親しみ、基礎的なコミュニケーション能力を育成することを目標としている。つまり、言語活動を中核として帰納的な学び方を推進する指導が求められている。しかしながら、現学習指導要領では、多くの教師が自身の英語力や指導力に不安を抱えながら演繹的な授業を行っており、言語活動を通しての帰納的な指導が効果的に行われていない現状である。このことから、指導力や英語力に自信がない教員にも実践できるような指導が確立されることが必要である。

さらに、児童が英語表現の自信を深めていくためには、児童が取り組みたいと思える効果的な言語活動の設定が不可欠である。直山(2020)は、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の設定のポイントについて、以下の4つのキーワードを挙げている。

- ・必然性(目的意識)：何のために話すのか
- ・相手意識：誰にどのように話すかを意識する
- ・ほんもの：児童にとって仮想・空想のものではなく、実際に目の前で起きる本当の活動にすること
- ・コミュニケーションの楽しさや意義：相手に伝わって楽しかったり話したことが誰かの役に立ったりすること

子どもの身近な場面などに関連させながら、上記の4つのポイントを押さえることが言語活動を設定する上で大切であり、言語活動の源になると述べている。

以上のことから、効果的な言語活動設定のためのポイントを押さえた上で、「コミュニケーションから始まり、それに必要な文法を学んでいく」授業を展開することで、児童が主体的に学び英語表現に自信を深めていくことを目指すこととした。

2 研究の目的

本研究では、言語活動を通しての帰納的な指導において、効果的な言語活動を設定することで、児童が主体的に学び、

*長岡市立日越小学校

英語表現に自信をもてるようになることを検証する。

3 実践研究の内容と方法

(1) 実施時期：2022年12月

(2) 参加者：3年1組32名

(3) 単元計画

① 実施単元：「たくさんの人と好きなことやものを伝え合って、もっと仲良くなるう」

～Unit 5「What do you like? 何が好き？」

② ねらい

- ・日本語と英語の音声の違いに気付き、身の回りのものの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・何が好きかを尋ねたり、答えたりして自分の思いや考えを伝え合う。
- ・相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。

③ 学習表現

- ・What (sport) do you like? I like (soccer).
- ・スポーツ…sport / volleyball / table tennis
- ・飲食物…food / hamburger / pizza / spaghetti / steak / salad / cake / noodle / egg
- ・果物・野菜…fruit / grapes / pineapple / peach / melon / banana / kiwi fruit / lemon

(4) 単元の構想と展開

表1の通り、児童の実態を熟慮して4つのポイントを押さえた言語活動を設定した。当該クラスの学年はコロナ禍に入学した学年である。1年生の頃から、同じクラスの友達との会話やもう一方のクラスとの交流の機会が制限されてきた。仲の良い友達だけでなく学年の他の友達とも関わってみたいという思いや学年としてもっと仲良くなりたいという課題意識をもっている。クラス替えがあったものの、学年としてお互いのことはあまり知らない状態である。

そこで「互いのことを知る」という必然性（目的意識）に合う単元指導計画を立案した。好きなことやものを話すことは仲良くなるきっかけになりやすいため、「たくさんの人と好きなことやものを伝え合って、もっと仲良くなるう」というテーマを設定した。

表1 本単元における言語活動設定のポイント

項目	内容
必然性（目的意識）	学年として、仲の良い友達だけでなく学年の他の友達とも関わってみたいという思いや学年としてもっと仲良くなりたいという思いがある。
相手意識	同じ学年の話したことのない人とも仲良くなれるように話そうという相手意識が存在する。
ほんもの	「普段あまり話したことのない友達と話す」「隣のクラスの児童と外国語活動をする」などという、普段できない「ほんもの」の経験がある。
コミュニケーションの楽しさや意義	「What ○○ do you like?」の○○は、授業によって変更したり、自分の知りたいことを聞いたりする。様々なテーマの中で自分で聞きたいことを選べるため、飽きずにコミュニケーションを楽しむことができる。意義として、話したことがない相手とも勇気を出してコミュニケーションを行うことが、相手と関係性を築く大きな一歩になる。児童自身が挑戦した時点で最も意義を感じられると考える。

表2の通り、単元計画を設定した。単元の流れとして、1・2時間目は、クラス内で多くの児童と交流することを目標としつつ、教科書の活動を通して英語表現に十分慣れ親しむ。3・4時間目は英語表現に自信をもった状態でペアトークに取り組み、もう一方のクラスの児童と数多く交流することをねらう。1時間目には、隣のクラスの先生と友達は何が好きかクイズを行うことにより、友達のことを知る楽しさを感じたり、別のクラスの友達を知りたいという思いを高めたりすることをねらう。

表2 単元計画

時	学習のめあて	活動内容
1	担任の例示や友達とのペアトークを通して、クラスの友達に何が好きかを進んで尋ねたり答えたりすることができる。	教師との対話 友達とペアトーク (中間指導) 2組クイズ Let's listen
2		教師との対話 友達とペアトーク (中間指導) Let's watch and think Let's chant
3	担任の例示や友達とのペアトークを通して、2組の友達に何が好きかを進んで尋ねたり答えたりすることができる。(2学級混合で学習) 3時: 1組赤組と2組赤組で学習 4時: 1組赤組と2組白組で学習	教師との対話 Let's play 2組の友達とペアトーク (中間指導)
4		教師との対話 Let's play 2組の友達とペアトーク (中間指導)

コミュニケーションから学習を始め、児童が必要な文法に自ら気付いていく言語活動を通しての帰納的な指導を達成するための手順として、「教師とクラス全体での対話」「ペアトークと中間指導」を実践する。

① 教師とクラス全体での対話

教師の英語での話を聞いたり、答えたりする中で、本時の英語表現に気付き、慣れ親しむことをねらう。例として、授業開始時に教師が「What fruits do you like?」と問う。初めて聞く表現に子どもたちは反応できないため、教師自身が「I like peach.」「I like melon.」と答える。その後、もう一度「What fruits do you like?」と問う。ここで児童が「Grape!」などと単語のみで答えることが予想される。教師は「Great!」などと賞賛した後、「I like grapes.」と正しい表現を伝え、答えた児童、クラス全体の順で発話させる。再び、教師が「What fruits do you like?」と問うと、1回目よりも反応する児童が増える。これを繰り返すことで、本時の英語表現に気付き、慣れ親しむことができる。教師が発話している英語は本単元で使用する学習表現のみであり、自身の英語力に自信がない教師も実践しやすいと考える。

② ペアトークと中間指導

様々な友達と話したり分からない表現をクラス全体で共有したりする中で、学びに向かう力を高めることをねらう。例として、まず教師が「Pair talk start.」と話す。児童は隣同士で「What fruits do you like?」「I like ○○.」の会話を行う。答える○○の中には、英語で言いたいと思いつけずに日本語で話してしまうものがあると考えられる。ここで中間指導として、ペアトークを途中で止めて、英語表現の確認を行う。例えば、クラス全体で教師が「英語で言いたいけれど、分からなかった言葉がある人はいますか。」と問う。例えばイチゴの言い方を忘れたと話す児童がいた際は、「Ichigo in English?」とクラス全体に問う。「Strawberry!」と答えることのできる児童がいると考えられる。また、クラス全体の前で発表したい児童にペアトークをしてもらい、その表現が正しいかどうかクラス全体で考えることを通してより慣れ親しむことができる。様々な友達とのペアトークの最中に、児童の様子に応じて中間指導を取り入れることで、コミュニケーションから学習を始め、児童が必要な文法に自ら気付いていく指導を達成することができる。と考える。

③ 効果的な言語活動を補助する学習カード

効果的な言語活動の実施のために、学習カードに3つの工夫を取り入れた。まず、学年全員の名前とチェック欄を設けた。ペアトークを行った友達にチェックすることで、誰と話したか、どのくらいの人と話したのか一目で分かる。「たくさんの人と好きなことやものを伝え合って、もっと仲良くなる」という単元の目標において自分がどの程度努力したのか、どの程度達成したのかを可視化することで「必然性(目的意識)」をより鮮明にし、児童の意欲を高めることをねらう。

1組	長岡 花子 ○	新潟 一郎 ○
...		
2組	山田 太郎 ○	山田 夏子 ○
...		

図1 ワークシートの表(例)

次に、毎時間ごとに何人と話したか記入する欄を設けた。この工夫も、達成度の可視化によって意欲を高めることを目的としている。今回の単元目標において、児童にとっては同じクラスの友達と話すことよりも、もう一方のクラスの友達と話すことの方が貴重な機会である。教科書に設定された活動は1・2時間目に行い、3・4時間目の隣のクラスとのペアトークの時間を増やしたい。1・2時間目にチャンツやリスニング問題などの活動でしっかりと慣れ親しみ、自信をもって隣のクラスとの交流に臨ませたいというねらいもある。

さらに、ワークシートに毎時間の自己評価と自由記述欄を設けた。「コミュニケーションの楽しさや意義」の観点で児童自身で振り返ることで、次時への改善の意欲を高めることをねらう。自己評価項目は「英語で質問できたか」「英語で答えられたか」「進んで友達に話しかけたか」の3つで、◎○△で評価する。自由記述においては、「自分のよかったところやもっとがんばりたいこと」を記述することとする。

(5) 検証方法

① 授業における児童の観察

学習の様子を観察し、言語活動を通しての帰納的な指導と、4つの言語活動のポイント意識した活動によりどのような変容が見られたか記録していく。

② アンケートとその分析

単元終了後に、以下の項目でアンケート調査をすることにより、4つのポイントを意識した言語活動が効果的であったか、言語活動を通しての帰納的な指導をどのように感じているかについて検証する。

ア 「たくさんの人と好きなことやものを伝え合って、もっと仲良くなろう」という目標で4時間の授業をしました。

1・2時間目は自分のクラス、3・4時間目は2組と一緒に行いました。感想を教えてください。

イ 先生は授業のはじめから日本語よりも英語をたくさん使いました。先生が英語でたくさん話したことはどう思いますか。

③ 学習カードの分析

毎時間の自己評価や対話した人数、自由記述を分析することで、児童の学びへの主体性や英語表現への自信の深まりが見られるか検証する。

4 指導の実際

(1) 文法への気づきを促す授業展開

「教師とクラス全体での対話」では、児童がスムーズに教師の英語での話を理解し、反応していた。「ペアトークと中間指導」では、児童が集中して取り組めるよう、児童の反応に応じて教師が隣の人や班、縦2列分、クラス全体とペアトークの範囲を決めた。全体的に意欲的に取り組んでおり、自信のなさから消極的だった児童も取り組むことができた。

中間指導では、クラス全体の前で発表したいという児童が数多くいた。ペアトークで英語で話すことができたと思っていた児童も、実際に全体の前に出ると英語表現が一部しかできない様子が見られた。周りの児童が教えることで、曖昧であった部分を詳しく理解することができた。「スイカの英語での言い方が分かりません。」などと英語での言い方を知りたいと話す児童も多かった。その疑問をクラス全体で共有し、英語の言い方を考えることも自ら英語を学ぼうとする意欲的な雰囲気となった。

1時間目では、好きな果物をお題に聞き合った後、「仲良くなるために他に質問したいテーマはありますか?」と投げかけた。好きなテレビ番組やキャラクター、好きな遊びなど様々な意見が出たため、英語での言い方を確認し、自分の聞きたいことを質問してよいペアトークを行った。学習の最後に教科書のリスニング問題に取り組んだところ、自信をもって取り組む様子が見られた。2時間目もペアトークで表現に十分慣れ親しむことで、自信をもってリスニングやチャンツに取り組んでいた。3・4時間目では、「What sushi do you like?」などと教師がまだ出ていないテーマでクラス全体との対話をスタートした。このような指導の展開を毎時間繰り返していても、教師が話題を変えたり、児童が自分の聞きたいことを選んだりすることで、飽きずに取り組んでいた。



写真1 教師とクラス全体の対話

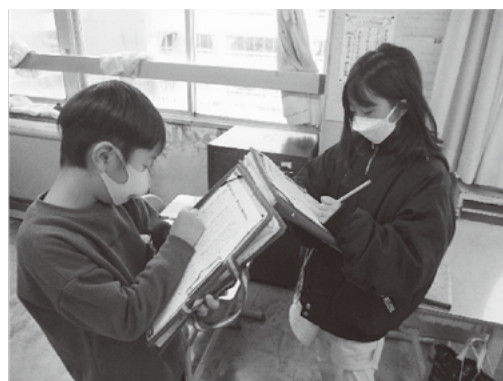


写真2 ペアトークの様子

(2) 4つのポイントを押さえた効果的な言語活動

1時間目のペアトークの後、2組の人の好きなことやものを当てるクイズを行った。一人目は2組担任、2・3人目は2組児童とした。黒板に写真を貼り、一人につき、「What fruits do you like?」「What TV program do you like?」など2・3問ずつ出題した。分かる児童もいれば、話したことがないため全く予想がつかないという児童もいたが、大いに盛り上がった。ほぼオールイングリッシュで出題したが、子どもたちは十分に理解してクイズを楽しむことができた。このクイズの後に、子どもたちに単元の目標や活動内容の説明をした。体育や総合以外では隣のクラスと交流することがなかったため子どもたちは驚いていたが、貴重な機会ということで喜んでいる様子が見られた。「2組との授業に向けて1・2時間目を頑張ろう。」と伝えたところ、子どもたちは1・2時間目で英語表現に慣れ親しみ、自信をもって3・4時間目の隣のクラスの交流において意欲的に会話する姿が見られた。

(3) 効果的な言語活動を補助する学習カード

学年全員の名前とチェック欄を埋めるために、多くの人と話す姿があった。ペアトークの際に全員と話したいという意欲的な児童は、「〇〇さんはどこにいますか。」と進んで声を出して探していた。児童にとって「話したことがなく、名前も顔もわからない人」も、名簿があることにより交流が実現した。「まだ話していないのは〇〇さんだ。」と言いながら、一人終わったらすぐ次の人を探するなど、テンポよくペアトークを行う様子も見られた。名簿があることで誰と話して誰と話していないかが分かるため、児童は見通しをもつことができ、決められた時間内で最大限の人数とペアトークすることに役立っていた。話した人のチェック欄を塗りつぶすことに達成感を得ている児童も多く、「たくさんの人と話したい」という意欲が伝わる活発な雰囲気のパートークとなった。友達の答えをメモしている児童も多く、詳しく知りたいという様子が見られた。毎時間ごとに何人と話したか記入する欄を設けたことも同様に、「前回よりも多くの人数と話したい。」「クラス全員と話すにはあと〇人と話せばいい。」と話すなど見通しをもって意欲的に取り組む姿に繋がっていた。

5 結果と考察

研究の結果、次の効果が認められた。

(1) 教師とクラス全体での対話により、自分自身で学ぼうとする態度が育まれた

アンケートの「先生があまり日本語を話さず、英語で話すことを多くしたのはどう感じたか」では、「英語が覚えられていいと思った」「先生が英語を話すと、わたしたちも英語で話しやすい雰囲気になる」など、97%が肯定的な記述であった。「一番最初は先生が何を言っているか分からなかったけど、自分で少し考えたら分かってよかった」「最初は分からなかったけど、友達が答えているのを見て分かった」というように、教師の英語や友達の話から自分自身で学ぼうとする態度が育まれていたことが分かる。

(2) 言語活動を通しての帰納的な指導や効果的な言語活動が自信を深めるのに効果的であった

表3の通り、毎時間の自己評価において言語活動を通しての帰納的な指導や効果的な言語活動を通して評価が向上した(1時間目も4時間目も肯定的評価であった人数も含む)のは、どれも90%以上であった。教師の英語での話を聞いて豊富にインプットし、ペアトークや中間指導でアウトプットと改善を繰り返すサイクルが、自信を深めるのに効果的であったと考える。

表3 毎時間の自己評価◎○△(欠席1名)

	英語で質問できた	英語で答えられた	進んで友達に話しかけた
1時間目の平均点(◎3点○2点△1点)	2.7点	2.6点	2.4点
4時間目の平均点	2.8点	2.8点	2.8点
1時間目と4時間目を比較し評価が向上した人数(初めから最後まで肯定的であった人数含む)	29/31人 (94%)	29/31人 (94%)	30/31人 (97%)

また、表4の通り、児童アンケートの単元の感想では、全員が肯定的な評価であった。特に、普段は学級単位での活動を学年全員で行えたことがよかったと言える。「最近喋っていない人と話せて嬉しかった」との記述も見られるなど、互いをもっと知りたいという児童の目的意識に合った活動であったからこそその高評価であると考えた。

表4 児童の自由記述 (欠席1名)

内容の趣旨	人数
友達のことが分かった	3人
友達になれた	4人
多くの人と話す機会になった	10人
隣のクラスと話せて嬉しかった	14人

たくさんの人と好きなことやものを伝え合って、もっと仲良くしよう!					名前:
時間	今日話した人数	英語で質問できた ◎△	英語で答えられた ◎△	通んで友達に話しかけた ◎△	自分のよかったところ や もっとがんばりたいこと
1	5	0	0	0	英語で話しかけるのがかばんば
2	4	0	0	△	英語で話しかけるのがかばんば た.???
3	8	◎	◎	◎	せしふかばんば.???
4	14	◎	◎	◎	多くの人と話した.???

写真3 児童のワークシート (裏)

6 成果と課題

言語活動を通しての帰納的な指導と効果的な言語活動を設定することで、多くの児童の外国語学習に対する意欲や自信が向上した。普段消極的であった児童も、教師のサポートを必要とせず、自ら多くの児童と関わることができたという達成感を得ていた。中間指導は児童の反応に応じて行う難しさがあるものの、学級が一つになって一人の疑問を考えたり、手本になった児童を賞賛したりする様子が、主体的で想像力にあふれる雰囲気を生み出していた。ポジティブな雰囲気を生み出したことも児童の英語表現への自信を深めることに繋がったと考える。今回の指導においては、教師は必要な学習表現を覚えていくだけでよいため、英語力に不安な教師も実施しやすい。英語を使おうという教師の意識が児童にも伝わり、児童の英語活用への意識が高まるのも感じられた。また、クラス全体に英語で話そうとすると、自然と抑揚をつけたり、ボディランゲージを活用したりするようになるため、教師自身も英語を使うことで自信の英語力を高めていくことができると感じた。

課題として、子どもたちにとっての必然性を考えることをはじめ、効果的な言語活動の設定までに多くの時間を要した。直山(2020)は、非常に忙しい中で毎単元完璧な言語活動を設定しようとする必要はなく、4つのポイントを少しずつ意識するだけでよいと述べている。継続して効果的な言語活動を設定できるよう、ポイントを少しずつ意識していきたい。その一方で、児童にとって効果的な言語活動を設定できるのは、児童に一番身近で実態が分かる担任であると感じた。AEON(2021)の調査では、8割以上の教師が英語専科教員の増員に好意的であると述べているが、多くの学年学級で授業を行う専科教員が児童の実態を押さえた言語活動を設定するのは非常に難しいと考える。児童が生き生きとした姿を見せる言語活動とするためにも、担任をもつ教師の英語力の向上や、言語活動を通しての帰納的な指導の周知が必要だと考える。

7 引用文献・参考文献

AEON. (2021). 『小学校の英語教育に関する教員意識調査2021』 「英会話イーオンインフォメーション」

<https://www.aeonet.co.jp/company/information/newsrelease/2103151100.html> (情報取得日2023年9月28日)

直山木綿子(2020). 『なるほど! 小学校外国語①言語活動』. 「文部科学省You tubeチャンネル: 外国語教育はこう変わる!」 <https://www.youtube.com/watch?v=LtCjrVFOsmg> (情報取得日2023年9月28日)

中井英民(2009). 『英語を使ったImplicit(暗示的)でInductive(帰納的)な授業の勧め Ⅲ. 授業のある程度の部分を英語で行うとは』. 「三省堂英語教育リレーコラム」

https://tb.sanseido-publ.co.jp/english/column/relay_bc/20091221.html (情報取得日2023年9月28日)

文部科学省. (2017). 『小学校学習指導要領解説 外国語編』

吉田研作(2018). 『日本の外国語教育はこう変わる!』. 「文部科学省You tubeチャンネル: 外国語教育はこう変わる!」 <https://www.youtube.com/watch?v=ZTx9qC80nIA&list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-EZKA4f&index=50> (情報取得日2023年9月28日)